

研究主題

主体的に学ぶ力の育成

～支持的風土のある集団づくりを通して～

研究主題設定の理由

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、**予測が困難な時代**となっている。(中略)このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に**積極的に向き合い**※1、**他者と協働して課題を解決**※2していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。
(中学校学習指導要領 総則 一部抜粋)

つまり、

『**予測困難な時代に向けて、主体的※1、協働的※2に課題を解決する力**』

が必要！！

実際、世の中は準備を始めており、大学入試でも以下のような問題が出題されました。

「**あなたが不条理だと思うことについて記載し、
どうすればそれを解決できるか論じなさい**」

(2021年入試)

「**知識や情報を持っているか**」



「**それらを活用して考える力があるか**」

を評価する形態に変わってきています。

そこで、「主体的に学ぶ力の育成」という研究主題は継続し、『**協働的な学びには集団の支持的な風土が必要であろう**』という仮説から、副題を「～支持的風土※3のある集団づくりを通して～」としました。 ※3 支持的風土…互いに支え合い、認め合える安心感のある雰囲気